

令和7年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和7年7月29日（火）午前10時から午前11時20分まで
場 所	蒲郡市役所北棟集会室
出席者	（委員）17名出席 ※別紙出席者名簿のとおり （事務局）こども健康部長、子育て支援課：課長、主幹、室長、係長、主事
配布資料	・令和7年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 次第 ・蒲郡市子ども・子育て会議 委員名簿 ・令和7年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 出席者名簿 ・令和7年度第2回蒲郡市子ども・子育て会議 席次表 ・令和7年度第1回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録 ・資料1 子ども・子育て支援事業計画の令和6年度進捗状況の点検・評価書（案） ・子育てコンシェルジュだより No. 52

議事：（進行）事務局：鈴木こども健康部子育て支援課長

○蒲郡あけぼの幼稚園父母の会 児玉 悠佳 欠席

○教育委員会学校教育課長 戒田 正敏 欠席

1 会長あいさつ

（稲葉会長） 本日はお忙しい中、蒲郡市子ども・子育て会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。今年は例年より早い梅雨明けとなり、暑い日が続いておりますが、皆様、体調はいかがでしょう。学校は夏休みに入りました。日曜日には、蒲郡の夏の風物詩であります花火大会も開催され、今からが夏本番というところでしょうか。先日公表された、厚生労働省の調査結果では、母親が働く子育て世帯は80%を超えているとされています。そのため、こどもたちの過ごす居場所や、給食のない間の食事など、長期休暇中だからこそ出てくる問題もあるのではないのでしょうか。こどもたちにとっての幸せな環境と、子育て世帯が育児と仕事の両立ができる環境、両方への支援がさらに必要となってくると感じています。本日も皆様からは、忌憚のないご意見やご提案をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 議題

（1）令和7年度第1回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録について

（稲葉会長） 委員の皆様には、第1回の会議議事録を事前に配付させていただき、議事録内容についてご確認をお願いしておりますが、修正追記など、何かご意見はありますでしょうか。河合さんお願いいたします。

（河合委員） 前回の発言について、余分な言葉がたくさんありましたので、割愛、それから修正を事務局の方をお願いさせていただきました。よろしくお願いいたします。

（稲葉会長） ありがとうございます。他にご意見、ご質問はございませんでしょうか。特にご意見、ご質問はないようですので、委員の皆様からいただいたご意見をもとに会議議事録の修

正追記をさせていただき、第1回の会議議事録につきまして公表させていただきますが、よろしいでしょうか。ご承認いただける方は拍手をお願いいたします。

(拍手多数)

ありがとうございます。拍手多数でありますので、第1回の会議議事録は承認されました。ありがとうございました。

(2) 子ども・子育て支援事業計画の令和6年度進捗状況の点検・評価について

●事業番号1 1号認定(3歳以上保育の必要なし)

●事業番号2 2号認定(3歳以上保育の必要あり)

●事業番号3 3号認定(3歳未満保育の必要あり)

●事業番号4 時間外保育事業(延長保育事業)

(事務局井坂から説明)

質疑応答

(鈴木委員) すみません、前回ちょっと気になって聞きそびれたのですが、療育と併用するというのはいわゆる並行通園という感じですかね。その療育側の施設っていうのは、この事業番号1から4の中にはめてないというか、どこに区分されるっていうふうに考えたらよいのでしょうか。

(事務局都築) この事業番号1から4には、療育の施設的なものは特には入っていないです。

(鈴木委員) ないですね。そうするとその先からいくと、発達支援関係のところが療育の統括という感じですか。それで、ごめんなさい。蒲郡市としてどのぐらい、いわゆる並行通園という感じですか。園に迎えに行くじゃなくて、直に親御さんが送ってくるっていう…

(山本委員) 両方です。

(鈴木委員) 両方あるんですね。それは、足りているんですか？

(山本委員) 足りてないです。

(鈴木委員) わかりました。そうすると、この中の後ろに出てくるいわゆる、発達支援関係のところの枠組みの中でやるという感じですかね。…それでいいですか。わかりました。何かこれ、他のところで色々調べてみるとやっぱり足りない、足りないというか、なかなかの難しさ、この間のときはお仕事をされている方の問題もありましたけど、お仕事をされていなくてもその園との関係だったりなかなかうまく…親御さんとしては、できるだけ行きたいのか、できるだけ戻したいのかっていう、そこの何かカウンセリング的なこともとても難しいということで、増やしたいけどどこが請負ってくれるかとか、この並行通園をやれるような、いわゆる蒲郡さんとしては、この発達支援センターだけではないですか？いわゆる何かNPOとか。

(山本委員) まず、障害福祉サービスから発生している児童発達支援事業の事業所が、蒲郡市内、最初は1ヶ所しかなかったんですけども、どんどん…ということでもないですけど、ぼちぼち増えてきていて、今現在はうちが行う社会福祉法人が行うものが2ヶ所、公立が行う児童発達支援センターが1ヶ所、民間が行うNPO法人で行っているものが1つ、あと学校法人が行うものが1つの5ヶ所の児童発達支援事業所がございます。それ

ぞれ送迎を行っているところもあるし、親御さんが送るところもあるし、それは色々です。その事業所によって、親子通園のところもあるし、単独通園のところもあります。使い方としても曜日で分けて、保育園に行ってる曜日、児童発達支援事業に行ってる曜日もありますし、時間帯によって9時から2時半まで療育を使ってからそのまま保育園に送迎して、夕方保育園を使うという方もいらっしゃいます。親子通所も単独通所もどんどん増えてはいるんですけれども、わりあいといつもいっぱい、今も少し待機が療育の方は出ているかなあという感じです。

(鈴木委員) 親子通園とこどもは分けている？

(山本委員) こどもだけで行く療育事業所と親子で行く事業所と両方ございます。

(鈴木委員) わかりました。いや、きっとここがどこもわりと色々な市町村を聞いても、何か隠れたニーズとしてすごく大きくて、でもなかなか難しいというか、必ずしも認定されていない子も含めているとなかなか難しいっていうのとあと、それが小学校以降に繋がっていくときにまたすごく接続的に難しい。放デイとかを利用する時になると急激にまた支援の厚さが変わってきちゃうみたいな、そういう問題はないのかなとちょっと思っただけです。きっとあるんですよ。

(稲葉会長) ありがとうございます。あけぼの幼稚園倉地さん、いかがでしょうか。

(倉地委員) 療育のことについては、今の通りだなと思いました。前回の発言と同じになってしまうんですけれども、療育を併用する方が、私たった3年ですけれど、3年の間にも明らかに増えてきているという印象があります。それで、月火と療育を使って、水木金と幼稚園に来る子、月火水と幼稚園に来て、木金と療育に行く子、週1回の子、それから午後だけ療育に行く子、様々ですけれど、それがうまく繋がれている子は、年少さんから年中さん年長さんと、すごくこう生活力というかコミュニケーション力というか高まっていることを感じるの、とても大事ななあと思っているところです。

(稲葉会長) ありがとうございます。現場からの貴重なご意見ありがとうございます。形原保育園の牧原さんいかがでしょうか。

(牧原委員) あけぼのさんと同じなんですけども、療育を併用している子がやっぱり保育園でもいまして、ただ、今入所の方も、0歳、1歳、未満児さんが増えてきているということで、なかなか最初わからない子たちもいて、途中からあれちょっとこの子やっぱり支援が必要になっていう子も出てきて、その子たちを繋げていくのが難しいなと思います。先ほどの保育の必要時間、だけれども保護者の方は延長を使ってお仕事をしていると、なかなか親子通所だとか単独通所、送迎も難しいなと思うので、その辺はやはり課題であるかなあと思います。それで、やはりそうやって療育の方を受けてきたお子さんは、やっぱり土台がしっかりしているので、その後、園の生活ですごく伸びていくところがあるなというのは感じております。

(稲葉会長) ありがとうございます。療育について本当にいろいろと考えていく必要があり、そしてまた療育をしたことによる結果も出ているというご意見で、とても参考になったと思います。保護者のお立場として木下さん、いかがでしょうか。

(木下委員) その療育とかの話でも多分そうですし、この14個の事業があると思うんですけど、

この令和6年とか令和5年って、多分去年、一昨年とかの数で今見てると思うんですけど、例えば今年の計画値や、なかなか多分リアルタイムで今の数字を見るのは大変だと思うんですけど、今年の計画値と現状のそういう実績値とかを見れると、どこが今年は計画値よりずれちゃうとか、今年は多分ここは大丈夫だけど、もっとこっちの事業に力を入れた方がいいとか、多分僕らもわかると思うので現状を。またきっと来年同じようにこういう会議が開かれるんですけど、結局過去の数字でしか多分見れないと思うので、その現状をもっとこう話し合いができればいいかなと思います。リアルタイムでの今の状態がわかるといいかなと思います。

(稲葉会長) ありがとうございます。本当にリアルタイムでいろんなことが起こっていくので、やはりリアルタイムで、課題等について皆さんと共有していけるといいかなと思います。ここまでで事業番号1番から4番、また療育について、みどり保育園の河合さんいかがでしょうか。

(河合委員) 現在うちの園で療育と併用しているこどもさんが3名いらっしゃいます。色々なタイプ、利用の仕方をされております。山本先生おっしゃったみたいに、本当にここ最近、施設、受け入れ側が増えてきてくださって、こどもさんのニーズに合った施設を、市の方でご紹介していただいているというのが現状かと思います。ただ、まだまだ必要とされているこどもさんに対する受け皿が十分かといえば、そこは足りていないかなっていうのが1つ課題であるということと、それから、先ほどから皆さんおっしゃってます、小学校につなげていくことへの難しさも感じています。何より私たちが一番感じているのは、ここに繋げるまでに保護者の方と何度か、こどもさんについての話し合いをするんですが、保護者の方がこの療育を受け入れるまでの時間っていうものも、かなり要します。早く受け入れていただけると、こどもさん達が本当に伸びるんです。もう明らかに、大勢のプロの集団から手をかけていただいた分だけは、生活力も、それからお友達との関わり方も変化を感じてます。ひょっとしたらそれは、小学校に行ったときに、いわゆる支援学級に行かなくても、通常学級でも生活できるレベルまで繋がっているっていう場合もあるんです。なので、最初の入口としては、保護者の方がこの療育をどこまで必要とするかという点と、やっぱりお仕事との関わり方で、とてもそれは難しいですっていうところの課題は感じています。

(稲葉会長) ありがとうございます。現在の状況とそして現状を踏まえてのこれからの課題をいただきましてありがとうございます。ここまでで、鈴木先生いかがでしょうか。

(鈴木委員) 今言ったように、なかなか人数が少ないところのものって声を上げる人がいなかったりすると、誰かが1度そういうのを整理して全体のことをやっていかないと、なかなか声が上がっていかないなっていうふうに思いつつ、特に近年この問題でおっしゃるように、確実にある種の効果だったり、やっぱり専門的な人たちが関わることの有効さというのはあるかなって思いますので、ぜひ、どこかでうまく連携がとれるような整理ができるといいなっていうふうに思います。あともう1つは、先回も申し上げましたけど保育者確保ですよ。保育者確保に尽きるというか、これはもうこども家庭庁も今、保育の魅力啓発プログラムとかっていっぱい打ち出していますが、なかなか潜在保育

士も含めて、大学としても保育者になる人を高校生から、魅力あるプログラムみたいなものを作りなさいという指示がいっぱい来るのですが。なかなかこれ、どうやったら打つ手があるかなあって。給料上げてくださってという感じなのか、ちょっともう国全体の問題なんです。上げてはいるんですけど、追いついていないとか、色々あるので。多分、ご苦労されていると思いますし、色々なところで人手確保どうしようっていうことも考えつつ、頑張りましょうとしか言いようがないんですけど。

(稲葉会長) ありがとうございます。先生の難しさを感じてらっしゃるところ、そして頑張りましょうというお声をかけていただき、皆さんも元気に頑張っていこうという気持ちになっていただけたんじゃないかなと思いますが、ここまで第1番目、3歳以上保育の必要なし。第2番目3歳以上保育の必要あり。第3番目3歳未満保育の必要あり。第4番目、延長保育事業、ここまでで、皆様のご意見、ご提案はいかがでしょうか。よろしかったでしょうか。

(二井委員) 私、2016年、17年あたりにですね、この蒲郡市の保育施設や幼児教育施設で、皆様にご協力いただいたアンケート調査や実際に訪問調査をさせていただいたのですが、そのテーマが「発達の気になる外国にルーツを持つこどもの実態」で、調査をしたときに、実際に訪問させていただいた園の先生方から、療育に繋がたいけれども、その親子療育だったりするときにも、お母さん、お父さんの言葉の問題で意思疎通がうまくできなくて、本当は療育を勧めたいけれども、うまくそこが伝わらない、説明できない。いや、行った先の療育施設の方も、お母さんが言葉ができない方はちょっと難しいですみたいな感じで断られたとか…今からもう10年近く前になるので、今、もしかすると状況変わってるかもしれないですけども、そういう話をちょっと耳にしたことがあります、そういう意味では今回こちらの方は子育て支援課ということで、その療育施設を含む連携ということももちろんされてると思うんですけども、それと同時に、例えばその多文化の方の担当の、こちらの蒲郡市だとどこが担当かちょっと存じ上げなくて申し訳ないですけど、そういう通訳だとか国際化を担当する部署との連携というのも、やはりこの問題には関わってくるかなというふうに思います。すみません。追加で意見として。

(稲葉会長) アンケート結果を踏まえての貴重なご意見ありがとうございます。山本さんいかがでしょうか。

(山本委員) もちろん、蒲郡市も同じようなことは、課題としてあるかなと思うんですけども、親子通園の事業所を、うちがやってる民間のものと、公立のやっている児童発達支援センターと、どちらでも親子通所をやっていて、単独もどちらもあるんですけども、ご家庭の事情とか、送迎があるとか、言葉の問題だとか、それらを繋げる前に、療育の必要性の話し合いみたいな場で、まず相談員さんどなたにするかとか、そういった色々な話をしながら、比較的、市がやっている児発センターの方が、通訳さんがつけやすかったりとか、あと、最近だといろんなAIの機器を使いながらやっていますので、親子通所でも何人か外国籍の方が使われたりすることはあります。役割分担してる…のかな、市の児童発達支援センターで受けていただいていることが今のところは多くて、うち

の方はどちらかというと、発達のゆっくりな、自閉系の症状が強いお子さんが得意なので、そういう発達障害の特徴が強い子はうちが得意だよとか、そういった少し役割分担をしながら相談しながらやっているという形で、もちろん全然足りているわけではないですけども、できる範囲でみんなで協力してやっているという形です。もともと蒲郡市さんは、こういう児童発達支援事業とかがない時代から、保育園でかなり受けてはくださっていたので、その辺も話し合いをしながら、移行みたいなのところも…私はもともと豊橋に本部がある事業所ですけども、色々な方が相談しながら一緒にやってくださっているなっていう印象です。近年だと、保護者が働いてる方が多いので、こんな使い方がいいのかなとか思いながら、相談しながら1つ1つのお子さんの例で、やり方を提案して受けてくださっているっていう形になっています。実際例があるので、あれですけれども、早朝も延長も使いながら真ん中だけ児発使うとか、ただ、そのお子さんがそれで大丈夫な方はそれでお願いするっていう形で、みんながそれがいいと思ってるわけでもないです。そんな形でやらせていただいています。

(稲葉会長) ありがとうございます。現状の山本さんの事業所のあり方や、そして現在蒲郡が行っている内容等教えていただき、大変参考になったと思います。それではここで、事業番号1番から4番はここまでとさせていただきます。また後程、ご意見いただける場があるかと思しますので、その際にある方はお願いいたします。

続きまして、事業番号5番の放課後児童健全育成事業から事業番号9番の病児保育事業について、事務局から説明をお願いします。

●事業番号5 放課後児童健全育成事業（児童クラブ）

●事業番号6 子育て短期支援事業（ショートステイ）

●事業番号7 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）

●事業番号8 一預かり事業

●事業番号9 病児保育事業

(事務局井坂から説明)

質疑応答

(稲葉会長) ただいま事務局から説明がありました。事業番号5番から9番までの事業について、何かご意見、ご質問はございますか。がまごおり児童館、榎本さんいかがでしょうか。

(榎本委員) 7月22日から夏休みが始まりまして、こどもたち1日中部屋にいる状態なんですけれども、学校の体育館を朝少し貸していただいたりとか、あと公民館がすぐ横にあるところは、公民館のクラブの方が出し物というか人形劇とか歌だったり、公民館で児童クラブのこどもたちに見せてくださったり歌ってくださったりするという色々ご協力があったりしまして、こどもたちはやっぱり1つの部屋にいてということがストレスになってしまうので、どこかに移動できるということだけでも、すごくストレスから解放されるので、そういうところで色々協力はしてくださっています。職員の方も、外にはなかなか走ったりして遊ぶことはできないんですけれども、ちょっと水を使った遊びを取り入れたりしてこどもを楽しませるようにしています。

(稲葉会長) 夏休みの児童館で色々な工夫してくださっている様子をお伝えいただきありがとうございます。蒲郡市小中学校PTA連絡協議会の竹内さん、いかがでしょうか。

(竹内委員) 今、児童館の件で、お母さん友達の話を聞いたときに、やっぱり毎日過ごしている場所なので、こどもたちが馴染み合いになってしまって、けんかがすごく増えたりとか、先生に対して…学校の先生と違う、やっぱりちょっと近い、お母さんとも違うけど、なんですかね、ちょっと馴染み合いになるところがやっぱりあるそうで、先生に対しても言葉がすごく強かったりだとか、やりたい放題やっている子がいてちょっと困ってるんだよねっていう言葉を聞いたことがあります。その子だけじゃないんですけど、そういう子と関わることで…ちょっとどうしようかな、もう学年的にも家にいてもいいような気もするけど、でも、いることによって、うちの子が最近悪い方についているという言葉があれですけど、ちょっと影響を受けてしまっていてという言葉も聞いたことがあります、やはり先生との関係もう一んという、何とも言葉に言い表せないような言い方をしていたので、そういう問題も…その安全な場所で見てもらっているという安心感はあるとは思いますが、ちょっと先の、欲をかけたところを言うと、そういうところもあるんだなあなんて思いながら話を聞いていました。ありがたいことに私は同居をしているので、何かって言ったら母もいつもいますし、いとこたちも近くにいたので、家でまとめて遊んでてもらったりというありがたい環境でずっといたので、そういった点では、我が家は恵まれていて、児童館だったりとか、こういった色々な施設に、困ったときに「どうしよう、預ける先が…」というところが、今まで考える機会もなかったので、今そういった共働きで家をあけてしまうお母さん、家で働きながらも家にいられると困ってしまうというお母さんの意見を聞きながら、こういった資料も今見させていただいたんですけども。

この夏休みもやっぱり今言われたような、同じ室内にずっといるとストレスがたまってしまう、今、外に出ることも止められてしまう。親としては少しぐらい汗かいて、熱中症対策しながら、汗かいたときにどういうふうに遊ぼうか？とかそういうことも…結局、運動することがなかなかないんですよ。外に出ちゃだめ。うちがいいと思っても友達のところ「こんなに暑いもんね、やめとこうか」っていう、じゃあどこに行く？っていうと、家で集まってゲームになってしまったりとか。なんかとてもそれが私自身はちょっと抵抗があるので、暑さ対策のアイテムを持ちながらなるべく外にというふうには思ってるんですけども、なかなか制限もある中で大変だななんて思いながら日々過ごしています。すいません。長くなっちゃいました。

(稲葉会長) ありがとうございます。私もこどもが小学校5年生で、やっぱり児童クラブ、児童館利用させていただいておまして、本当に今、竹内さんがおっしゃってくださったのが、夏休みの働く世帯の皆さんの実情というか、こどもさんがやっぱり最初は行ってくれるんだけど、児童館、児童クラブへの行き渋りが色々な事情であったり、そういうリアルな実情をこういう場でお話いただけるのは本当に貴重だと思うんです。またそういうこともこれからの課題として検討していけたらいいな、こどもたちにとっても預ける保護者にとっても安心安全な場所で、そして楽しく過ごせる場所であってほし

いなというのはありますので、今後の課題として、貴重なご意見ありがとうございます。

どうでしょうか、蒲郡市こども家庭センター岡本センター長いかがでしょう。

(岡本委員) 本当に夏休みって、ずっとこどもたちがいるので、ストレスを抱えやすいお母さんたちってすごい大変な時期で、本当にそういうときにこども家庭センターの保育士さんとかがまずは一緒に見学に行って、安心なところだと言って利用してもらったりとかするようにしていて、本当に必要な人が、自分から動いて利用できる人はいいんですけど、中にはそういう行動ができない人がいるので、そういう人には一緒に行って手続きしたり、一緒に見に行って、お子さん楽しくできるねっていうふうに、利用を促して少しでもお母さんがストレスなく、こどもさんと楽しく過ごせるようにしております。

(稲葉会長) ありがとうございます。こういう場所があるということもまた皆さんに周知していければいいと思います。他にどうでしょうか。事業番号5番から9番までの事業について、ご意見、ご提案いかがでしょうか。二井先生、いかがでしょうか。

(二井委員) 事業名7番のところでちょっと質問なんですけれども、相談件数というのが右の方に書いてあるんですが、私やっぱり相談というのは、そこに何か、その中身によってやっぱり政策のヒントというか、何が今最も求められているかというヒントがあると思うんですけれども。この相談内容はこういったものがあつたのかということと、具体的に細かく1つ1つはもちろん全然いらないんですけれども、いわゆる今子育て支援課がやっているこの政策、制度の、何らかの修正が必要だとか、もしくは新たなこういう制度が必要だっていうようなそういう可能性を見出せるような、質問内容から蒲郡市さんとしては何かこう感じているものとか分析しているものというのが、何かあれば教えていただきたいと思うんですけれどもいかがでしょうか。

(事務局都築) 相談内容については本当に子育て全般に関するものだったり、支援センターですと来所されるお子さんが小さいので、本当に離乳食の進め方だったりとか、相談内容も個々によって多様化しているのかなというのは感じています。それに対して、ここだけでの相談だけでなく、ここから先ほどお話がありましたこども家庭センターに繋がったりとか、離乳食だったら保健師さんに繋がったりとか栄養士さんに繋がったりとか、そういったところでその人のニーズに合ったところに了承を得てお繋ぎするというようなことをして対応はしております。

(二井委員) ということは、現状の対策というか連携で、解決できている状態だということでしょうか。

(事務局都築) そうですね。今のところはそれで特に何か困っているというところは出ていないのかなというところと、あとやっぱり相談というよりも、話せてスッキリした、聞いてもらえたことですっきりしたっていう方も結構多くいらっしゃるって、そういった方がお子さんを連れてきた際に、ちょっとそこにいる職員と話して、何か話せたのですっきりしましたという形で、相談なのか、お話なのかということも多々あって、そういうところにできるだけ早めの、深刻に悩んでしまう前に早めに対応っていうことには心がけ

ております。

(稲葉会長) ありがとうございます。どうでしょうか。蒲郡市民生委員の岩金さん、今までのところでいかがでしょうか。

(岩金委員) 児童クラブについては、私も色々耳にすることがあるんですけども、本当に今の時代、大事な働きであると同時に、先ほど竹内さんがおっしゃっていたみたいなの、その同居世帯の減少っていうものがすごく、他の保育園の事業もそうなんですけれども、同居世帯が減っているってことが、すごく大きいのかなって思っております。だからといって、これはすごく大きな問題なので、同居世帯を増やすような働きかけっていうのは難しいと思うんですけども。時代の流れに沿って、こうした色々な事業が増えてきてはいるものの、追いついていないっていうのが現状なのだなということをちょっとひしひしと感じながら拝見させていただいております。私、主任児童委員は主にこの子育て支援センターさんの働きに関わることが多かったりですとか、保育園さんの園庭開放のときにお手伝いに伺ったりしております。そこにいらっしゃっている親子さんたちは、そういう情報を得て行動を起こしてらっしゃるから、色々、何ていうんですかね、まだ大丈夫と言ったら変なんですけれども、そういう行動を起こされない中で、ご自宅で悩んでいらっしゃる親御さんとかお子さんも、影でいらっしゃるのかなと思って、そこへの手を差し伸べる方法っていうのが、なかなか難しいのかなという感想もいただいております。以上です。

(稲葉会長) やっぱ利用できる方とうまく利用できていない方、そういう方たちに丁寧に周知をし、寄り添っていくことが必要ということ大変参考になりました。ありがとうございます。事業番号5番から9番、他によろしかったでしょうか。

そういたしましたら、続きまして事業番号10番の子育て援助活動支援事業から、事業番号14番の妊婦健康検査について、事務局から説明をお願いいたします。

●事業番号10 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）の就学児童対象部分

●事業番号11 利用者支援事業（子育てコンシェルジュ）

●事業番号12 乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）

●事業番号13 養育支援訪問事業

●事業番号14 妊婦健康診査

（事務局井坂から説明）

質疑応答

(稲葉会長) いま事務局から説明がありました事業番号10番から14番までの事業について、何かご意見、ご質問はございますか。健康推進課酒井係長いかがでしょうか。

(酒井委員) 健康推進課の方では事業番号12番から14番の業務の方を請負わせていただいております。今本当に色々な子育てに対して、先ほども出ましたけど地域での核家族化が進んできてということで、同居世帯が減ったりということだったり、外から嫁いでみえて、身近にご支援者がいない世帯があったりというところで、様々なご事情を抱えながら子育てをされているという家庭が増えてきているかなと思います。その中で

も事業番号13番で養育支援訪問事業についてなんですけれど、こちらの事業はお母様が心の病気、精神疾患があったりとか、なかなか子育ての方がご家族だけでは支援のご協力が難しかったりというご家庭に対して、保健師や、看護師、保育士等それぞれのニーズに沿った形でご支援をさせていただいて、安心して適切に養育ができるものになってことなんですけど、今、出産後から養育に少し負担を抱えたりという家庭が増えているかなってところで、この事業のニーズが増えてきているかなと思っております。現在、事業自体を担える専門職というところで、助産師、看護師、保育士が各1名ずつというところで、多様に、この事業の支援が届くようになっていうところでは、もう少しこのあたりの人員が必要かなと思っておりますので、適切に養成講座等を行いながら、ここの人員確保というところも努めていくことが、より丁寧な関わり、支援に繋がっていくのかなと思っております。

(稲葉会長) 実情、現状を踏まえての課題、おっしゃっていただき大変参考になりました。ありがとうございます。事業番号10番から14番までの事業について、いかがでしょうか。鈴木先生いかがでしょうか。

(鈴木委員) もうここ、本当におっしゃるように子育ての環境、多様なニーズの受け皿になっていただく部分かなって思います。他のところも共通してそうなんですけれども、やっぱりやればいいというわけじゃなくて、きっと皆さんが質を高くしたいという思いで取り組んでおられるんだろうなって思うんですね。だから、結局その質を高くする1番のものは制度でもありますけど、やっぱり人材を確保することと、先ほどの児童クラブの話なんかで言えば、研修のシステムというかそういう人たち、やっぱり専門職としてどうあった方がいいのか。児童クラブは本当におっしゃるように難しいと思うんです。こどもから見たら、「こんなところに先生はおらんでいい」とよく言うんです。でも親よりも甘えるし。すごく難しい環境の中でやることは、多分、そういう人たちの質を、人材としての質をよくするために、やっぱり研修のシステムみたいなものを…これは市独自でやることなのか、もっと大きいシステムの中でやらねばならないことか。そういうことも含めて、何度も出ておられましたけど、人を育てるというか、人を育てないと質は上がらないというふうに思いますので、制度もとにかくですけど、そういう今度は人を育てるシステムみたいなものができていくと、相互作用的に豊かになっていくかなと、ちょっと感想ですけども、やっぱり人を育てるのは人ですっていう感じのところ、立ち戻るシステムだなと思って今聞かせていただきました。

(稲葉会長) 今までの課題等を踏まえての先生からの所感、非常に参考になりました。ありがとうございます。そうしましたらここで、事務局から、全体に関わる課題について、説明をお願いしたいと思います。

●その他全体にかかわる課題

(事務局井坂から説明)

質疑応答

(稲葉会長) その他全体に関わる課題と、今一度、全体を通して事業番号1番から14番について、皆様の方から何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。蒲郡商工会議所専務

理事の長瀬さんいかがでしょうか。

(長瀬委員)

1 番から 14 番、それぞれ必要なものばかりでして、1 つ 1 つの意見はちょっと言えないんですけども、全体を通して皆さんの発表を聞いていると、やっぱり人材、人の問題だと思います。確保、それからやはり処遇改善、こういったことが必要なことで、これ全国的なことだと思いますし、愛知県の場合ちょっと見ていきますと、子育てランキングなんかで上位を占めている…これどういうデータをもとに算出してるかわかりませんが、日進市が全国の 10 位、14 位に長久手市、それからあと大府市、このあたりが子育てに強い市町村ということで、おそらく市独自の色々な取り組みがあったり、そういったところの事例をまた勉強してですね、いいものを取り上げていき、また要望活動ですね、会議所は経済的なことを要望していくんですが、やっぱりこの部分もかなり重要な部分で、要望していく。やはり補助金だとか助成金、色々ものを県や国へ要望していくことが必要になる部分があるかと思いますので、そういったところで皆さんの意見を、議事録を聞いて…やはり処遇改善と人材確保だと思いますけど、その辺りをまとめて会議所として取り組んでいきたい。いけたらいいなと思っております。

(稲葉会長)

経済界の方、商工会議所として今後取り組んでいっていただけるようなことおっしゃっていただいて、大変皆さんも心強いかと思います。どうぞ、引き続きお願いいたします。そうしましたら、社会福祉協議会の鳥山さん、いかがでしょうか。

(鳥山委員)

皆様のご意見を聞かせていただきながら、全体的に関わるところの課題のところ、人材確保ですね。人材不足がやはり多い。こちらの方ですね、福祉介護の現場の方でも、もう子育てのみではなく、人材不足が本当に顕著になっておりまして、こういう話がどこの会議に出ても、出てくるところではあるんですけど、具体的などころの方策みたいなどころはですね、なかなかこう決め手に欠けるみたいなどころがありまして、ただ、手をこまねいていてもしょうがないので、1 個 1 個やれるところからやっていくところになると思うんですけど、1 つはですね、そういう形で、当面、ここ 1、2 年でどうしていこうかっていうところも含めてなんですけど、ちょっと長期的に考えるとですね、私どもは地域福祉っていうところに根差して事業活動をしているんですけど、地域福祉のところでは、やはり福祉教育ですね。聞きなれないかもしれないんですけど、福祉教育っていうのをもっと学校とかですね、そういう学校以外のところでも、クラブでもいいですけど、そういうところで福祉教育というのをちゃんと推進していかないとですね、先々も考えるとやはり人材不足が、もちろん金銭面のこともあるんですけど、魅力というかですね、福祉っていうのに関わるのが、もう実際、こどもの頃から関わっていないと、やはり突然大人になってからそういう仕事に就こうとかそういう話にはなかなかならないのかなというのは、最近痛感しております。ちょっと時間がかかるんですけど、社会福祉協議会としては地域福祉の 1 つとして福祉教育というのを、今後ですね、ちょっとプラットフォームになれるような形で、関係機関の皆様に協力いただきながら、推進していければなと思っております。

(稲葉会長)

ありがとうございます。地域福祉の充実のための、福祉教育、ぜひ取り組んでいって

いただければと思います。すべての事業番号を通して、また全体を通して、皆様方のご意見、ご提案、他にいかがでしょうか。そうしましたら二井先生、全体を通していかがでしょうか。

(二井委員) 全体を通してという前に、事業番号12番、13番を見ていると、令和4年度から令和5年度にかけてかなり人員が減っている。それが昨年度も継続してという中で、非常に訪問件数も、逆に増えるというか、非常に本当に頑張っているなと思いました。特に保健師さんの数が12名から8名って3分の2になるっていうのは、4人っていうだけだと、12から8っていうだけだと、その減りが多いか少ないかって一瞬わからないかもしれない。でもよく考えたら3分の2になるっていうのは、かなり大きな負担ではないかと。その中で訪問件数は増えていると。非常に本当に頑張ってもらっているなというふうに思いました。そういう意味ではこの話の中で、皆様のご意見の中でも人員確保の話がありましたけれども、本当に限られた人員の中で本当に職員さんの方々、皆様が頑張ってもらっていることが伝わってきました。待機児童もゼロであると、発生していないということもこれも素晴らしいことだと思います。ただ、そういう意味では、今頑張ってやっているけれども燃えつきてはいけませんし、働いての方がやっぱり追い詰められてはいけませんので、そういう意味ではその、もちろんお金の問題もありますけども、やっぱり人数の問題は仕事の質に関わってきますし、やりがいのところにも関わってくるところだと思うので、ぜひ、その「人」、もう本当に頑張ってもらいたいと思うので、一緒に働く仲間が少しでも増えるといいなというふうに、すみません、単純に思った次第です。

(稲葉会長) 数字から見えてくる色々な皆様のご尽力やご努力を踏まえての、そして今後の課題としてどのようなことに力を入れていけばいいかということ、非常に参考になります。ありがとうございます。鈴木先生いかがでしょうか。

(鈴木委員) 何度も皆さんが言ってくださっているので、もう人材とその確保と、そしてその連携、やっぱりいろんな機関がたくさん増えてきたときに、なかなか日本のシステムとして、縦に並んでしまっただけで横に繋がらないっていうところを、こどもを軸にして、お子さんをどう育てたいか、こどもをどういうふうに教育して保育したいかっていう、その理念で繋いでいけるような何か大人の都合ではない繋ぎ方ができると、さっき言ったそれはやっぱり教育であったり、色々な理念の背景があると思うんですけど、そういうふうにできるといいなって思います。でもそれはすごく蒲郡市さんとしては、割と昔から、なんか濃い感じというかそれはすごく感じます。人と人の繋がりみたいなものをすごく大事にされて、こういうのをやっているっていうことをすごく感じますので、それはもうどんどん推し進めていただければいいかなと思います。多分、1つ触れたくない問題かなと思うんですけど、来年からこども家庭庁「誰でも通園制度」というものの本格施行を推し進めて…昨日も、保育学会の政策検討会議に出ましたが、ちょっと触れたくないっていう市町村が…というか、もうそれをするかしないかという問題以前に、もう人もいないし、そんな理念的にもどうも納得できないという感じで、触れたくないけど一応来年から本格施行っていうふうなので、何かの方策はもし

かしたら…やらないならやらないでいいっていうわけにいくかどうかわかりませんが、逆に言うと待機児童がいないので、やらなくていい部類に入らないと思うんですよ。都市部は、まだ待機児童がいるのでそこはいいっていう感覚は、例えば西宮とかあるんですけど…私もやっぱりあんまり触れてみたくないけど、何か言われたときに方針としては…これ個々に任せちゃっていいのか、その市町村として、何かやらなきゃいけないことができるか、半年後かなみたいな感じで、来年度から本格施行とかいう話です。何かまた、それぞれの市町村なかなか声は上げてくれませんが、モデル事業みたいなところに聞くと、これも日本の制度の問題かなと思うんですが、モデルにされた以上何か悪いこと言えなくなるんです、みんな。だから、もっと率直に「こんな意味ない」とか言ってくれるところがあるかっていうと、「いやー、モデルになるんですから頑張りましょう。」みたいな話で、こないだ神戸の会議のときも、なんかみんな言いたそうなんです、各園としては。だけど、市がモデルにさせていただいているのですから、皆さん頑張ってくださいみたいな話になって、何にも言えなかったみたいなことをちょっと苦情で聞いているので。すいません。何か、寝た子を起こすなって感じですけど。きっと降ってくるかなと思います。

(稲葉会長)

ありがとうございます。鈴木先生が触れたくはないと仰ってましたが、何となく触れていく、考えていかなければいけないこれからの課題をお話いただきました。そして、それとともに蒲郡市が今までやってきたこと、大変その人と人との繋がりが濃い。それが、いい結果、いい成果を出してるところもあるというお声を聞かせていただき、大変ありがたく思っております。今、先生方のお話を聞いて、そして皆様方のお話を聞いていただいて、これはこの場で言っておきたいというようなことがあれば、ぜひお聞かせいただきたいと思います。皆様いかがでしょうか。感想でも、ご提案、ご意見、ご質問でも何でもよろしいですが、大丈夫でしょうか。そういたしましたら、皆様方から貴重なご意見いただきました。ご意見等は、事務局で取りまとめをしていただくようお願いいたします。

それでは最後に、議題3のその他ですが、委員の皆様から、何かご意見、ご質問連絡事項などはございますか。よろしかったでしょうか。それでは、ご意見、ご質問等もないようですので、これにて、本日の議題はすべて終了とさせていただきます。委員の皆様、議事の円滑な進行にご協力いただき、ありがとうございました。

以上